

平成29年8月18日

# 農作物生育・技術情報7号

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JAびらとり JA門別町

## 1 水稻生育状況 中苗:ななつぼし

親穂を中心に穂かがみが見られます。すでに落水している水田がありますが、土壌表面が乾燥しすぎると亀裂が大きく入り、稲の根が切れて吸水力が低下し、登熟不良や千粒重に影響します。水田土壌排水や稲の登熟状況をよく観察して行いましょう。

カメムシなどの病害虫は、水田すくい取りを行い、発生状況に応じて防除してください。

生育状況 (8/15現在)			〈 技術 対策 〉
項目	H29年	平年	
草丈 葉数 m茎数	101.1cm 11.4葉 592本	98.3cm 10.7葉 531本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登熟前半の水管理 「穂かがみ期」になるまで、水田の土壌水分を確保する。高温が続く場合は掛け流しを行うなど、水田の温度を下げる。</li> <li>・登熟後半の水管理 収穫の10日前頃までは、土壌表面を乾燥させない。水田の適正な水分は、土壌表面に小さな亀裂ができ少し足跡が付く程度。排水の悪い水田は溝切りを行う。水田が乾燥する場合は走り水を行い土壌水分を保つ。</li> <li>・カメムシ対策（追加防除） カメムシの温床になる畦の雑草を処理する。 水田すくい取り(20回)を行い、捕虫した数で追加防除の判断をする。 《判断基準》 「きらら397」 2頭以上 「ほしのゆめ」 1頭以上 ※「ななつぼし」「ゆめぴりか」は「ほしのゆめ」に準ずる</li> </ul>
出穂期	7月31日	8月2日	
出穂揃	8月4日	8月5日	
生育の遅速	+ 1	-	

※ 病害虫防除は、農作物病害虫防除ガイド等により適正な薬剤使用を行う。

## 2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月定植で5段目収穫中。</li> <li>・6月定植で2段目収穫中。</li> <li>・生育は平年よりもやや緩慢。急激な高温により、一部のほ場で葉やけ症状が見られる。</li> <li>・灰色かび病、うどんこ病、アザミウマ類、ヨトウガ、ハダニ類、裂果、すじ腐れ果、軟果、尻腐果などが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な換気に努め、古葉や内側の葉は適切に摘葉する。</li> <li>・高温期の着果不良や上位段での空洞果が予想される場合は、トマトーン100倍とジベレリン10ppmを混用処理する</li> <li>・昼夜温の差が出始め、裂果が発生しやすくなるので温度管理に注意する。</li> <li>・収穫が終了したほ場の茎葉残さは、必ず適正に処理する。</li> <li>・玉肥大を促すため、時期を見計らい摘心する。</li> </ul>
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は順調。</li> <li>・主茎が10節程度まで伸長し、平年並の収穫始となる見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「うどんこ病」「アシグロハモグリバエ」、「アブラムシ類」の発生に注意する。</li> <li>・害虫の発生が見られた場合は、適宜防除を実施する。</li> <li>・主茎の摘芯や側枝の整理は、まとめて一度に行うと、樹勢が衰えるので注意する。</li> </ul>

作物名	生育状況	技術対策
ハウス軟白ねぎ	・4月定植収穫中。 ・アザミウマ類、ハモグリバエ類、萎凋病、黒斑病、葉先枯れ症状が出ている。	・雑草は害虫の発生源になりやすいのでハウス内外の除草を行う。 ・萎凋病発生ほ場では計画的に土壤消毒を実施する。
アスパラガス(ハウス立茎)	・灰色かび病、斑点病、アザミウマ類の発生が見られる。	・ハウス内外の除草を徹底する。 ・斑点病は定期的に防除を行う。

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。  
 今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

### 3 畑 作

●豆類 病害虫防除時期です。ほ場をよく観察し発生が確認されたら直ちに防除しましょう。

(1) 大豆

〈マメシクイガの防除〉

防除時期	備考
2回目:1回目の散布から7~10日後	8/20~25ころ

(2) 小豆

〈菌核病、灰色かび病、炭そ病防除〉

防除時期	備考
1回目:開花最盛期(7/下~8/上)	アズキノメイガと同時防除を実施する
2回目:1回目の散布から7~10日後	

●秋まき小麦の後作緑肥

収穫後の地力を高めるために後作緑肥を作付けしましょう。

〈えん麦の後作緑肥栽培例〉

は種時期	すき込み時期	は種量(/10a)	施肥量(kg/10a)
8月上~中	10月中~下	15~20kg	N:4~6 P:5~10 K:0~5

### 4 畜 産

●牧草生育状況(8月15日現在)

作物名	生育状況			遅速日数	摘 要 (作業期節・特記事項)
	項目	29年	平 年		
牧草(チモシー)	草丈(二番草)	72.5cm	76.0cm	-2	生育はやや緩慢である

※二番草の刈取時期は一番草刈取後、45日~50日です。ほ場によっては収穫適期を過ぎています。

遅れると栄養価や嗜好性が悪くなります。天候に留意し、効率よく収穫しましょう。

●サイレーヅ用とうもろこし生育状況(8月15日現在)

作物名	生育状況			生育期節	遅速日数	備 考
	項目	29年	平 年			
サイレーヅ用 とうもろ こし	草丈	337.7cm	312.2cm	絹糸抽出 100%	-3	8月上旬は、気温が低く、雄穂・絹糸抽出は生育はやや遅れてた
	葉数	18.1枚	18.0枚			
	稈長	303.9cm	276.5cm			

※登熟が早まる可能性があります。 平年値(乳熟期:8/29、糊熟期:9/13、黄熟期:9/26)

登熟度合に留意し、早めの収穫準備をしましょう。